

開催報告

国際シンポジウム題名	京都大学 — リーズ大学 国際シンポジウム: 自然災害の監視・軽減・防止・復興のための工学の最先端	
開催日	平成 30 年 9 月 17 日～平成 30 年 9 月 19 日 (3 日間)	
主催部局	工学研究科	
協力部局名	情報学研究科、教育学研究科、地球環境学堂、経営管理大学院、防災研究所	
開催地	国名	英国
	開催地	ウェストヨークシャー州 リーズ市
	会場名	ウィートウッドホール http://www.weetwood.co.uk/
共催大学・機関名	リーズ大学・工学研究科	
シンポジウム開催概要	<p>英国リーズにて、国際シンポジウム：自然災害の監視・軽減・防止・復興のための工学の最先端を開催した。本学からは、稲葉カヨ理事・副学長をはじめ、教員、URA、国際担当職員の 19 名が参加した。リーズ大学とは日英 12 校で構成する RENKEI(日英産学連携プログラム)を通じて学術交流・学生交流を重ねるとともに、2016 年 11 月には大学間学術交流協定および大学間学生交流協定を締結した。その後、両校の工学研究科(機械系、地球系)を中心に、研究・教育交流のより実質的な進展を図るために本シンポジウムを企画し、英国リーズ大学にて京都大学国際シンポジウムを開催した。台風 21 号の影響により関西国際空港が閉鎖され開催が危ぶまれたが、大半の参加者が渡英し予定通りシンポジウムを実施することができた。</p> <p>シンポジウム初日、ハイスイ・ユ リーズ大学国際担当副学長、稲葉カヨ 理事・副学長の開会挨拶に続き、ラウル・フエンテス副工学研究科長(国際担当)、榎木哲夫副工学研究科長によって両大学の紹介がなされた。稲葉理事の挨拶の中では、1915 年発刊の京都帝国大学工学部紀要をリーズ大学図書館に寄贈したことに対するリーズ大学図書館からの返礼の手紙が紹介された。100 年以上も前から両大学の工学部で交流関係が築かれていたことが示され、友好的な雰囲気の中でシンポジウムが始まった。</p> <p>開会式の後、工学の特定の専門分野にとらわれない学際的な議論を行うために、本シンポジウムの目的と構成が説明された。それに引き続き、自然災害の監視・軽減・防止・復興のための工学の最先端をテーマとして、3名のキーノート講演(イオアニス・アナスタソフォウラス教授(スイス連邦工科大学チューリッヒ校)、ロコ・ザーニック教授(ルブリヤナ大学)、セバスチャン・メイヤー教授(スウェーデン王立工科大学)と討議が行われた。その後、テーマ別グループセッションへの導入として、ラウル・フエンテス准教授、ナタリー・バンデルワル研究員、榎木哲夫教授、立川康人教授により、自然災害の監視・軽減・防止・復興に関する学際的な教育・研究に関する発表とともに、京都大学で実施中の「京都大学デザイン学大学院連携プログラム」の紹介もなされた。</p> <p>その後、研究者間の関係を深めるために、4つのグループに分かれ、初日夕方から2日目午前中まで、研究発表と討議が行われた。4つのグループテーマは以下の様であった。</p> <p>1) Data-centric & human-centric design of resilient socio-technical systems using participatory systems approach and AI,</p>	

	<p>2) Robotic innovation for disaster management and human-robot collaboration, 3) Advancement of structural and geotechnical engineering for natural disaster identification, mitigation, prevention and response, 4) Interdisciplinary approach to mitigate/prevent water-related disasters</p> <p>これらのグループセッションでは、1)それぞれの分野の最先端は何か、2)研究と社会的要請のギャップは何か、3)社会実装のための研究の必要性の順位付け、4)学際的研究の必要性、を共通テーマとして議論がなされ、さらに共同研究のテーマやワークショップの計画が議論された。また、「京都大学デザイン学大学院連携プログラム」をはじめとする学際教育プログラムにおけるリーズ大学との今後の連携についても協議していくことが確認された。</p> <p>2日目午後のセッションでは、京都大学、リーズ大学がともに加盟している RENKEI (日英産学連携プログラム)の 1st フェーズ(2013-2017)の成果をレビューするとともに、2nd フェーズ(2018-2022)の計画案を共有し、本学とリーズ大学による RENKEIでの協力関係について意見交換した。また、JSPS ロンドンから糸井氏、尾崎氏を招き、JSPS 事業紹介とともに、研究費の獲得のための討議が行われた。</p> <p>2日目最終セッションでは、各グループの代表者が、討議の内容、今後の共同研究の可能性、具体的なプロジェクト提案、ワークショップの計画等を報告し、全員で今後の協力関係を確認した。</p> <p>3日目は、リーズ大学キャンパスに赴き、各研究室を訪問して、具体的な研究内容について議論を深めた。</p>
シンポジウム URL	https://engineering.leeds.ac.uk/info/201479/conferences/337/kyoto_university-university_of_leeds_international_symposium
参加者数(聴衆を含む)	51 人